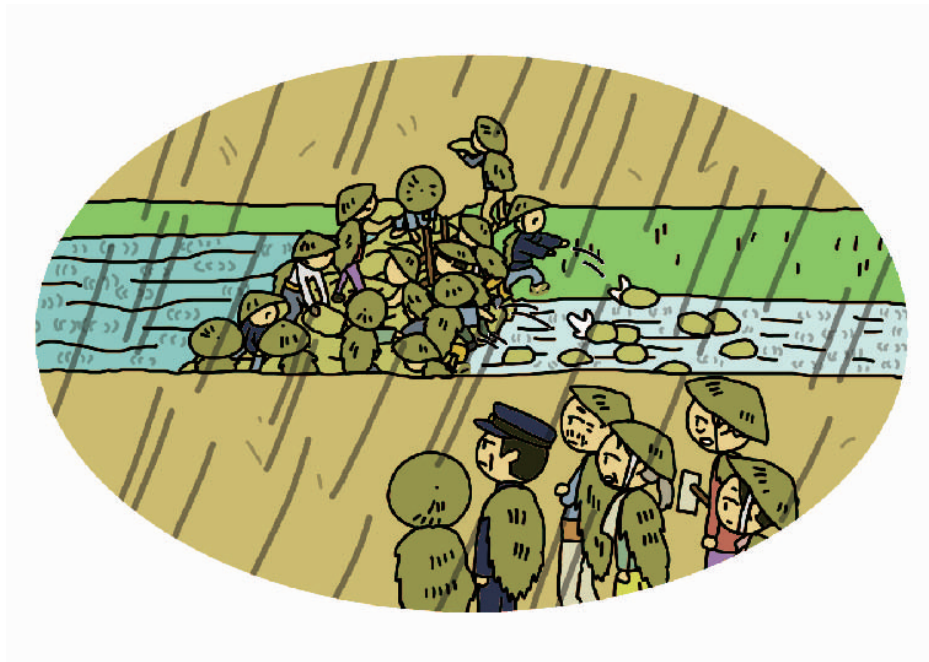


かつては堰をめぐる深刻な上下流の対立が生まれるほどの
洪水があったことを知ること



桑野川に一の堰が造られたのは、寛永一五年（一六三八）のことです。この堰のおかげで、下流の水田に水を引き入れることができるようになりました。その反面、堰上流の地域では、大雨の度ごとに浸水被害が頻発しました。このため、堰上流の人々は一の堰の改修について大正の中頃から政府に陳情を重ねてきましたが、改修は実現しませんでした。事件が起こったのは、室戸台風で大被害が起こった昭和九年（一九三四）から二年後の昭和十一年でした。

この年の夏は、八月一日頃から連日雨が続いたため、低地部では浸水が続き、その上台風が接近して来ました。八月二十六日、降りしきる豪雨の中、半鐘が乱打されます。蓑笠の人々が、決死の気持ちで一の堰に集まってきました。浸水被害に遭っている上流の農民たちが一の堰を壊したのです。皆無言です。見守る下流の見能林の農民たちも無言です。警察官もただ見ているだけです。

一時間たち、二時間たつて、やがて上流の水が下がりかけました。上流の農民の目的は達したのです。意気揚々と郡八幡神社に引き上げていきました。樽酒があげられ、冷や酒で祝杯があげられました。代表者二、三人が一晚警察に留置されましたが、皆無事に帰宅しました。

川にはそれまで堤防がありませんでしたが、この事件を境に、堤防がつくられ、昭和三五年（一九六〇）に完成しました。また、新たな一の堰は昭和二八年に下流に造られましたが完全ではなく、三代目の立派な一の堰ができたのが昭和四三年でした。事件以来三二年たっていました。

昭和三〇年代以前

背景

桑野川の一の堰は、牛岐城主の賀島政重が寛永15年（1638）幕府の許可によって造ったと言われています。長さ20間（約36m）、堤底10間（約18m）の一の堰が完成し、富岡東部、見能林、津ノ峰の七百餘町歩（約7km²）の水田に水を送ることができるようになりました。しかし、この堰のため、長生から桑野までは、大雨の度に田畑から屋敷まで水の底になることが度々になり、年に5回も6回も洪水になった年もあったと記されています。

アクセス 一の堰

- JR阿南駅より西北西へ直線距離で約1.2km
- 阿南市富岡町
- 緯度経度 北緯33度55分18秒, 東経134度39分00秒

